持続可能で探究的な総合的な学習の時間の在り方
「南木曽未来プロジェクト～少し先の未来を考える～」を通して

信州大学教育学研究科高度教職実践専攻（信州大学教職大学院）　山口　学

研　究　の　背　景

これからの社会に求められる探求的な学習

総合的な学習の時間は，探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから，これからの時代においてますます重要な役割を果たすものです。
「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」
（令和4年3月文部科学省）

予測困難な社会の変化に主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら，どのような未来を創っていくのか，どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である
「平成28年12月21日中央教育審議会答申」

層求められる働き方改革の中で

文科省が時間外勤務の上限と示す「月45時間」を超える教員は、22年度の調査で小学校では、64%、中学では77%に上るという。
⇒恒常的な超過勤務の実態

○「各学校が地域や学校、生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されている」
（中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編）
⇒教科書がなく、学習内容が定められているわけではないので、教材研究が重要

○教師自らがその学校がある地域を歩き回り、
児童生徒に出合わせたい「ヒト・コト・モノ」に出合う必要がある
⇓
総合的な学習の時間の学びを充実させるには時間がかかる

問　題　の　所　在

探究的な学びとしての総合的な学習の時間を一層充実させる必要がある

教師の働き方を圧迫しない総合的な学習の時間の教材研究が求められている

研　究　の　目　的

二つの問題の解決を目指し、地域を題材にした総合的な学習の時間の授業の実践を行い、その実際の様子や生徒の学びの姿を提案する。

実　践　の　記　録

はじめに

「人口戦略会議」が将来的に消滅の可能性がある市町村として全国の744市町村を挙げ、その中に南木曽町も含まれる
（令和6年4月）

第1時

3学年生徒に今年の総合的な学習の時間のオリエンテーションを実施し、まず、今年の総合的な学習の時間のテーマ「南木曽町について考えよう」を示した。そして、学習の目標として「南木曽町の未来について考え、自分のやりたいこと、自分にできることを見つけ、友達、地域や社会と関わりながら計画・実践していく探究的な学習を通して、南木曽町をよりよい町にしたり、自分の将来を切り拓く力をつけたりする。」を示した。
そして、南木曽町が消滅可能性がある自治体に含まれていることを伝え、南木曽町の消滅を防ぐためにどうすればよいかを尋ね、google formsに「南木曽町の消滅を防ぐためにどのようにするか」を記入する時間を設けた。

第2時～5時

第1時に生徒が記入した考えを「観光・PR」「伝統工芸」「人を増やす」「住みやすい町」の四つの観点に分類し生徒に示した。そして、今後の活動の方向について話し合う場を設けた。生徒は、どれも大切な課題であるが、まずは南木曽町が人口減少や住みやすい町づくりについて現在どのように取り組んでいるかを考えたいと願った。そこで、特に生徒が考えたいと願った「人口政策・子ども支援・少子化・高齢化」、「観光・SNS」、「空き家」「交通」という四つの課題に沿って、生徒を4つのグループに分け、南木曽町が現在どのような政策を行っているか、また南木曽町の課題は何かについて、情報収集を行った。

夏休み中

家族や親戚にインタビュー活動を行った。
○「これ以上少子化が進んだ場合、将来南木曽町を出ようと考えるか」
⇒24名中10名が出る、11名が出ない、3名が分からない
○「南木曽町の良いところや、改善してほしいところ」
⇒「空き家問題」、「買い物の不便さ」、「自然の豊かさ」、「教育」や「医療」

町長との懇談会（令和6年10月11日(金)）

南木曽町長である向井裕明氏にご来校いただき、ご講演と生徒と意見交換する時間を設けた。
向井町長からは、
①南木曽町が「消滅可能性都市問題」に対して、どのような政策をとっているのか
②この問題の大変さ、苦労、法律やお金の問題など、この問題に関する具体的な難しさ
③町で人口政策に関わっている大人は、どんな思いでこの問題に関わっているのか
などについてお話を頂き、中学生からも意見を言ったり、質問をしたりした

1日総合での活動（令和6年10月25日(金)）

Ⅰ　「空き家」グループ

町内の空き家の状況や町の賃貸住宅などの状況を調べ、空き家の清掃活動と南木曽で空き家を活用している方々へのインタビューを行った。生徒は、町で借り上げて移住定住住宅として貸し出す予定の空き家の清掃を行った。貸し出しやすいようにある程度きれいな空き家が選ばれているということを知り、本当にきれいにしたいような空き家の清掃を他人が行うことはやはり難しいと感じた。また、東日本大震災を経験し「誰かの役に立つことを実感できる仕事をしたい」と南木曽町に移住して、宿泊業を営んでいる熊谷さんにもお話を伺った。

Ⅱ　「人口政策」グループ

木曽郡で唯一「消滅可能性都市」に入っていない木祖村に出かけ、木祖村の村長である奥原秀一氏にインタビューを行った。木祖村は塩尻市や伊那市などの市部に近く、通勤圏であることが一因であるという地理的な要因を知った。また、奥原村長さんが、南木曽町には妻籠宿や田立の滝など歴史を感じられる観光地がたくさんあること、企業があって町内で働くことができるという木祖村にはないメリットもあるというお話をされていたことから、改めて町外の方から見た南木曽の魅力を感じた。

Ⅲ　「観光」グループ

南木曽駅前や妻籠宿へ行って お店や観光協会の方、観光客の方にインタビューを行った。そして、妻籠宿で働いていて思うことや、南木曽のいいところ、不便なところ、何を見て南木曽に来たのかなどを教えてもらった。ほとんどの観光客の方が、妻籠宿と中山道を目的として来ており、南木曽自体を知らない人が多かったという事実から、南木曽の魅力を一層発信していく必要を感じた。また、情報源としては、SNSを理由している方が圧倒的に多かったということを知り、町の情報発信として、SNSをさらに活用していくように、町に訴えていく必要を感じた。

Ⅳ　「消滅不可避グループ」

南木曽町よりも行政として規模が小さい王滝村に行き、そこで移住促進のコーディネーターを勤めていらっしゃる杉野さんにインタビューを行った。杉野さんから、移住のスローガンとして「ハードモードライフ」つまり、「あえて苦労をする暮らし」を掲げ移住者を募っているという話を聞いた生徒は、自分たちが南木曽町に感じていた住みづらさも実は長所になるかもしれないということに気づいた。また、人はライフステージの中で求めるものが変わっていくので、世代に合わせた町づくりを行う必要があることにも気づいた。

南木曽町民大会議

令和6年12月12日（金）南木曽中学校体育館
参加者250名

今までの活動の成果や歩みを発信し、南木曽町の現状を多くの方に知ってもらい共に考える場。
①これまでの南木曽中学校3学年の総合的な学習の時間の活動の発表
②向井町長や町民代表、生徒代表、保護者代表による
パネルディスカッション
③会議の参加者の意見交換。

⇒　参加者からはgoogle formsで感想を募る

参加頂いた方の感想や意見

○まず、中学生が地域の未来を真剣に考えていることに感激しました。4つの切り口から自分たちの意見をまとめ、それを大人たちに発表して、町全体の地域創り活動に繋げていこうという提案に驚き、とても勇気づけられ、嬉しく思っています。そして町人が50人も来てくれたことも、嬉しいねえ。
○生徒の素朴な感想や疑問が町長や議員に届いたことと、参加していた町民が他人事ではなく捉える事で、小さなことでも何か動き出すかもしれないので、今回の企画はとても意味のあるものになったと思う。
○私自身は中学校の頃に自分の住む南木曽町の課題について知ること、課題について深く学ぶ機会がありませんでしたので今日の「大会議」での3年生の学びは私にとっても自分ごととして受け止め、何ができるか具体的に動く…背中を押された気がします。

学　習　後　の　生　徒　の　考　え

○自分的にはあんまりいろんなところに行ったりしたことがないから何も言えないけどこんなにいい故郷はないかなとか思ったからこれからも南木曽に住んでいたいなと思った。自分の生まれ場所としても楽しい思い出としても大人になってもいい感じの距離を取ってかかわっていきたい。
○一度は出ていきたいけど、またこの南木曽町に戻ってきたい。
○将来はまだどうするか決まっていないけど、できれば南木曽町と関わっていきたい。

主体的・継続的に南木曽町に関わっていきたいと願う生徒

ま　と　め

①長野県の多くの自治体が消滅可能性自治
②大人と共に考えられる
③子どもが危機感を抱き、夢中になれる
④自身の住んでいる地域を深く考える